

「わがまち再発見！」景観フォーラム開催状況報告

日時：平成23年2月9日(水) 14時～16時30分

場所：みつなかホール「文化サロン」

参加者：65人

1. 『「わがまち再発見！」写真展の5年間の軌跡』(20分)

都市計画課から写真展の開催状況報告

- ・地域の貴重な景観資源を市民目線で掘り起こし、地域への愛着と誇りを醸成した。
- ・全567作品(342人)。猪名川や里山の人気が高い。



1. 市からの報告の様子

2. 『写真展からひろがるわがまち意識』(30分)

写真展に協力していただいた市民団体から活動報告

- ・「学んで・歩いて・見て」という視点で、市内に残る自然景観や伝統行事の記録ビデオを制作、上映。
- ・写真展を協力するに至った経緯や、写真展から発展した「桜の保全活動」や「河川の美化活動」などを紹介。



2. 市民団体の活動報告の様子

3. 『わがまち再発見からまちづくりへ』(60分)

近畿大学の久先生による基調講演

- ・新たな資源よりも今ある資源を活用する方が早い。
- ・秩序を生む方法は、「規制」、「誘導」、「啓発」の3つ。
- ・全国展開のロードサイド店が同じ景観を作っている。川西らしい生活が川西らしい景観を作る。(生活景)
- ・誘導と規制はアメとムチで効果があるが、これからは自律性が大事。自律性がなければ創造性が働かない。



3. 久先生の講演の様子

4. 『写真展をどのように活かしていくべきか』(30分)

会場内で意見交換(コーディネーター:久教授)

- ・写真展を見てこんなところもあるのかと感じた。
- ・川西のことを知らない人も多いので、写真は効果的。
- ・写真展は応募された全作品を展示した点良かった。
- ・猪名川の景観を守るため、清掃活動をしている。
- ・炭づくりで余った材料もエコ燃料として活用している。



4. 意見交換の様子

○来場者アンケートの状況(回答:38件)

- ・川西の良いところを見つけて育む活動に感銘を受けた。
- ・今後に繋げていくことが大事。期待しています。
- ・集まったお宝写真をまちづくりに活かしてほしい。市民としても積極的に活動していきたい。
- ・暮らしやまちが景観をつくるのだと感じた。
- ・写真展をどう具体化するかの話し合いにまでは至らなかった。この続きが大事ではないか。
- ・今後の展望を示してほしい。